



仙台市科学館 蒲生調査レポート 速報版

No.129 〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館 事業係
2016.11.12 TEL:022-276-2201 FAX:022-276-2204
<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

暖かな秋の干潟

■冬前のにぎわい

例年11月に入り気温が低下すると生物の姿も見られなくなるが、今回の調査は暖かい日（仙台の最高気温17.1℃）であったため、干潟で摂餌するチゴガニ(Fig. 1)やコメツキガニ、ヤマトオサガニ (Fig. 2)を観察できた。夏場は活発なウェビング（はさみ脚を上下に動かす行動）を見せるチゴガニであるが、今回の観察では全くウェビングを見ることはできなかった。

ヤマトオサガニはチゴガニよりも警戒心が強く、巣穴へと逃げ込むと長時間外には出てこない。2,3分ほどこちらが動かずにいると姿を見せ、摂餌を観察することができる。また、甲幅1cmほどのヤマトオサガニも観察され (Fig. 3) 蒲生干潟で繁殖していると考えられる。



(Fig.1 摂餌するチゴガニ)



(Fig.2 ヤマトオサガニ)



(Fig.3 小型のヤマトオサガニ)

■地形の変化

Fig. 4は2015年11月、Fig. 5は現在の河口である。レポートNo. 127に記載したように、導流堤基部には多くの砂が堆積している。△は壊れた堤防の一部であるがFig. 6のように以前は水中にあったものである。しかしFig. 4とFig. 5比較するとわかるように導流堤と川の間砂は明確に減少している。過去には砂の堆積で河口が閉塞したこともあり、今後も河口は様々に地形を変えるのであろう。



(Fig.4 2015年11月の河口)



(Fig.6 2015年8月の河口)



(Fig.5 2016年11月の河口)

(佐藤 賢治)